

カペシタビン服用患者における手足症候群に対する支持療法の実施状況

田村 溪¹⁾、政本 康成²⁾、古川 紗衣子³⁾、中村 僚宏⁴⁾、山口 弘⁵⁾、
常世田 京子⁶⁾、永野 悠馬⁷⁾、前田 守⁷⁾、長谷川 佳孝⁷⁾、月岡 良太⁷⁾、
森澤 あずさ⁷⁾、大石 美也⁷⁾

- 1)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 千葉西店
- 2)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 つくば天久保店
- 3)(株)アインファーマシーズ アイン諏訪薬局
- 4)(株)宮古アイン 宮古調剤薬局
- 5)(株)アインファーマシーズ アイン薬局 獨協医大店
- 6)(株)アインファーマシーズ
- 7)(株)アインホールディングス

【目的】カペシタビン(CAP)の服用で好発する手足症候群(HFS)の支持療法では、主に外用の保湿剤(ヘパリン類似物質や尿素等)や副腎皮質ステロイド(合成糖質コルチコイド:GC)剤を用いるが、その実状に関する報告は少ない。そこで、CAP服用患者の外用薬併用状況から、HFSへの支持療法について調査した。

【方法】2017年4月から2020年10月に当社グループが運営する保険薬局にCAPを含む処方箋を持参した患者7,086名において、CAP服用期間の保湿剤、外用GC剤の併用状況を集計した。また、当社グループの薬局プレアボイドからCAP服用患者のHFSに関する事例を抽出した(アイングループ医療研究倫理審査委員会承認番号:AHD-0085)。

【結果】外用薬併用率は、保湿剤が63.8%(ヘパリン類似物質60.3%、尿素配合剤5.7%)、外用GC剤が15.6%であった。また、以下のプレアボイド事例を確認した。CAPを服用している60歳代女性患者から、手足の親指にCTCAEのGrade1に該当するHFSが発症している訴えを聴取した。処方箋はCAPのみであったため、支持療法が必要と判断し、疑義照会したところ次回診察時確認と回答を受けた。そこで、トレーニングレポートでGrade評価を添えて支持療法の提案を行った。次回診察時、医師によりHFSが確認され、外用GC剤が処方された。

【考察】CAP服用患者の63.8%に保湿剤、15.6%に外用GC剤の併用経験があり、保湿剤の使用によって外用GC剤が必要となるまでのHFSの悪化を防げる可能性が示唆された。したがって、プレアボイド事例で示すように、薬局薬剤師は患者の主訴から支持療法の必要性を判断し、積極的な提案を実施することが必要であると考

える。その際は症状を CTCAE で Grade 評価する等、エビデンスの提示が必要である。

(第 31 回医療薬学会年会(2021 年 10 月, Web)にて発表, 一部要約)